白神ねぎ

○長ねぎ栽培について

3月も半ばを迎え、気温が徐々に高くなってきます。来る定植作業に向けて、適切な温度・水管理を徹底し、健苗を育てることが重要となりますので、以下の点に留意しながら、日々の育苗管理を行いましょう!!

1）越冬苗

育苗期間が長いため、肥切れしている場合が考えられますので、液肥による追肥をします。

①倍率…今時期は100倍(日照が強い日中は控える)

②ハウスの換気を行う…湿気がこもりやすく、間延びしやすくなります

③過灌水は控える…軟弱徒長しやすくなります

2）当年度播き

夜間被覆し、次の日に晴天日の場合、ハウス内温度が急激に上昇し、蒸れ苗や焼けてしまう場合があります。

朝、温度が低くても、ハウス内の温度（モヤ）を除くために、短期間の換気を行いましょう。

また、換気の際は、直接冷気が当たらないように不織布（パスライト等）を張りましょう。

3）病害防除

小菌核腐敗病（湿度が高く、低温になると発生しやすくなります。）

○原因　気温10～15℃　ハウスの通気悪く、湿度が高くなると発生。

○対策　一回の灌水量を多くし、回数を少なくする。ハウス内の換気を行う。

○防除　定植時の灌注処理に使用しない薬剤を用いる。（トップジンM水和剤またはベンレート水和剤）

白神山うど

○山うど収穫・管理について

・今後は天気の良い日が多くなり、日が差すと日中はハウス内の温度も高くなります。

そのため、日中の天気の良い日にはハウス内の温度管理に注意し、寒冷紗等を用いて品質保持に努めてください。

また、夜から朝方にかけては低温に注意し、低温時には被覆資材等を用いて低温回避に努めましょう。

［株分け］

・種株は腐敗している株を使用せず、健全で大きく充実した株を使用します。

株分け後は凍害や野鼠被害を防ぎ、乾燥させ過ぎないように保管・管理してください。

・やむを得ず廃株を種株に使用する場合は収穫時に良かった株を選抜し、普段の株分けより大きく切り分けてください。

また、乾燥を防ぐようブルーシート等で覆い、直接日の当たらない風通しの良いところに保管しましょう。

［株養成］

・種株は土壌病害の発生していない健全な圃場に植え付けます。

また、排水性が良く、水害の影響を受けにくい圃場を選択しましょう。

植え付けの際は、優良な芽株を種株とし、病害株は早期に除いてください。

白神きゃべつ

○きゃべつ栽培について

2月下旬より播種作業が徐々に始まっています。3月に入り温度も少しずつ上昇してきていますが、まだまだ低温には注意が必要です。低温障害を受けないためにも、ハウス内の温度管理には十分注意して下さい。低温が予測される場合は、被覆資材で被覆したり、ハウス内であってもトンネルを使用して下さい。

育苗期間中の水管理は、朝にたっぷり潅水し、乾くようであれば乾いた部分のみ潅水して下さい。

3月下旬ころからはハウス内温度もあがるため、ハウスの開閉により温度調整をしっかり行い、徒長のないがっしりした苗を育てましょう。

白神みょうが

○みょうが栽培について

・新植する場合の注意点は、できるだけ西日が当たらない場所や排水の良いほ場を選定し、根茎腐敗病対策に努めます。また、暗渠や明渠を行うことも重要です。

・10a当たり必要な種株は、300～400株、150～200kg（約10,000本）程度を用意し、1～2芽をつけ約15cmに切断した地下茎の病害のない物を種株とします。

・種株の消毒は、ランマンフロアブル200倍を30分間浸漬し、処理後乾燥しない場所で保存します。

・10ａ当たり元肥の施肥量は、完熟堆肥３㌧、てんろ石灰100kg、ようりん60kg、みょうが専用肥料100kgです。

・畦幅100～120cm、畦の高さ20～30cm、通路50cm程度、条間30cm、株間15cmの２条植えを基本とします。

・植え溝は６～８cmにし、定植後覆土･鎮圧をします。

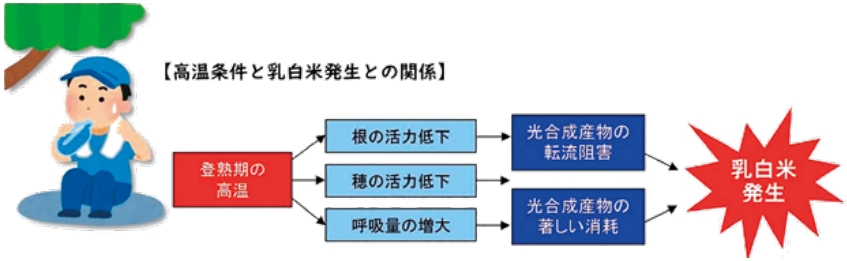
蟹座（6・22～7・22）　やるべきことが多くプレッシャーを感じがちですが、乗り切れる強さがあります。後半、状況に好変化の兆し

水稲の異常気象対策とけい酸加里

水稲の高温障害は出穂期以降に高温に当たることでデンプン供給機能が上手く働かず、米粒が白濁化する現象です。これによって、胴割れなどが起こりやすくなります。高温障害対策にはケイ酸の施用が逆効果とされており、ＪＡではケイ酸資材『けい酸加里』をおススメしています。

◆高温障害について◆

近年、地球温暖化の影響を受けて夏場の高温が問題となっています。夜温を含めた極度の高温は乳白米など品質低下の一因となるため人間の熱中症対策と同様で、イネも高温に備えた対策が必要です。



【乳白米発生を軽減するための対策は？】

●作付けでの対策 … 高温と出穂の時期が重なると乳白米が発生しやすくなります

対策　田植え時期をずらす、乳白米の発生しにくい品種に変える　等

●耕種的対策 … 面積あたりの籾数が多くなると乳白米が発生しやすくなります

対策　植付本数の抑制、最高分けつ期までの窒素の適量・適期施肥（過繁茂にしない）等

●栄養的対策 … 高温下では養分吸収が鈍くなります　丈夫な稲体づくりが大切です

対策　カリやケイ酸などを十分施用（丈夫な稲づくり）、早期の窒素切れを起こさない　等

◆　なぜけい酸加里は異常気象に効果があるの？　◆

●根張りが良く、健全な稲体に育つ

けい酸加里は根の伸長を促進して養分吸収の手助けや、稲体を丈夫にするため倒伏に強くなります。また、高温時の気孔の開閉をスムーズにして蒸散量を多く維持することで稲体の温度も上がりにくくなります。

●光合成が活発になる

けい酸加里は登熟期の光合成を活発にし、デンプンの生成を盛んにします。

H25年度けい酸加里肥効試験（新潟県村上市）

◆　あきたこまちＲ注意点　◆

砂質で、かつ「秋落ち」が見られる水田では、ごま葉枯病が発生しやすくなります。そのため、そのような水田ではマンガン質肥料を施用することをおすすめします。

ごま葉枯病は近年、発生が少なくなっている病気ですが、昨年も一部地域で発生が確認されています。砂質で、かつ秋落ちが認められる水田では注意して下さい。ごま葉枯病については、営農企画課または各営農センターへ。

◆けい酸加里の使い方◆　詳しい情報やお求めは経済課または各営農センターへ

【土づくり施用の場合】　40～60kg／10ａ　秋～春に散布

【中間追肥の場合】　20～40kg／10ａ　出穂の45～35日前に散布

双子座（5・21～6・21）　人との交流に喜びがあります。会合、会食にはできるだけ出席を。困っていると手を貸してくれる人も現れそう